

ました。これをヒントとして私は、水生雑草の光合成を測定する装置を開発しました。その結果、いかなる水生雑草も、光を90%さえぎれば生育しないことが分かりました。

昔から畑地に刈草や、藁(わら)を敷き詰めて、土壌の乾燥を防ぐと同時に、雑草の発生を防ぐ敷き草農法(マルチまたはマルチング)がありました。私は、再生紙と綿製品を作る際に出る屑綿をマルチ材料としました。これが紙マルチ稚苗移植農法となり、また、布マルチ水稻直播栽培(愛称・お布団農法)へと発展しました。私が紙マルチ農法よりも「布マルチ農法」を大事に思うのは、高価な田植機を必要としないで、誰もが取っつきやすく、手軽に有機農業による稲作が出来るからです。

マルチ布の材料は、医療用のガーゼや脱脂綿の製造過程で、原綿から出る毛足の短い綿毛です。毛足が短いので糸に紡げま

せんので、不織布にします。したがって、染料や脱脂薬など一切使っていません。この不織布の上に種籾を筋蒔きして、さらにもう一枚の不織布でこれを覆い、サンドウィッチのようにはさみます。この布を幅約1メートル、長さ100メートル巻きのロール(マルチ布)にします。

このロールを乾いた水田に広げれば、これで田植えはおしまいです。後は、水深5cmぐらいにして、イネの葉が2〜3枚出るまでマルチ布を浮かべておきます(約20日間)。

すると水田の土面には草が芽を出し、葉を土面に広げます。この時を見計らって、水を完全に落として雑草を押しつぶします。マルチ布は、光を90%以上遮りますから、二週間ほどで草は完全に枯れます。

マルチ布が乾くほど水を干して、以後は、時々田に水を湛えれば出穂期にもことさら水を張る必要はありません。なるべく

水を張らないで土を固めておくのです。こうすると直播イネは倒れません。土地が乾かなければイネに被害はありません。こんな誰にでも出来る有機農業の稲づくりは他にありません。稲づくりを省力化して、畑作の有機農業にも精を出しましょう。

娯楽の一環として、肩の力を抜いて有機農業を楽しんで下さい。一切の生き物が同胞となります。たくさんの生き物と、山紫水明の風土を遺産として、子孫に遺そうではありませんか。